《ネクストステージ》

《ネクストステージ》は，《ステージ》の発展的活動のための学習材です。
《ネクストステージ》実践の前に，《ステージ》を経験しておくことをお薦めします。
《ステージ》については，以下の URL の pp. 59-60 をご参照ください。
https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/39406/20160329131003796090/JEEC_4_53.pdf

3～5 名程度のグループで，様々な表現を編集して音楽をつくりましょう。
どんな楽器，どんな表現でも使うことができます。

1. 表現カードをつくろう。

まず，メンバー一人ひとりが，自分の得意とする表現ややってみたい表現を付箋紙にメモしていきましょう（このメモを「表現カード」と呼びます）。ひとりが何枚つくってもかまいません。

表現カードの例

ピアノで ジャジャーン	変なおどり	リコーダーで ゆったりとした メロディ
モノマネ	ピアノを てきとうにひく (黒鍵だけで)	はげしい太鼓
「おおきなかぶ」 読み聞かせ	「越天楽」の CDをかける	「つばさを ください」 を歌う

例にあるとおり，

- どのような表現でもかまいません。歌，踊り，朗読，お芝居，手品，物真似などのほか，体操，けん玉，そろばん，九九の暗誦など，表現に制限はありません。
- 歌や踊りなどは，自分たちで作ったものでもかまいませんし，みんなが知っているものでもかまいません。
- CD などを再生するだけの表現があってもかまいません。
- 書き方や表現のなまえは自由です。

2. 合わせ技を考えよう。

各メンバーがつくった表現カードを，グループ内で見せ合いましょう。

そして，それらのカードのなかから，つなげたり組み合わせたりすることによって，よくなりそうなもの，おもしろくなりそうなものを探してください。いくつの表現カードを使ってもかまいません。

このような，ふたつ以上の表現を合わせてつくる表現を「合わせ技」と呼びます。

合わせ技には，例えば次のような可能性があります。

ア ふたつ以上の表現を同時に行う。

（例：表現Ａと表現Ｂとを同時に行う合わせ技）

ポイント：似た雰囲気の表現を同時にやるか，まったく違う雰囲気の表現を同時にやるかによって，合わせ技の味わいが変わります。

イ ふたつ以上の表現をひとつずつつなげる。

（例：表現Ａ→表現Ｂ→表現Ａ→表現Ｃ→表現Ａ，という順番で行う合わせ技）

ポイント：表現の順序が変わるだけで印象が変わります。上の例のようにひとつの表現を何度も登場させる方法もあります。

ポイント：表現の変わり目を考えよう。例えば「パッと変わる」「じわじわ（重なりながら）変わる」などの可能性があります。

３．新しい表現カードをつくろう。

合わせ技になまえをつけて，新しい表現カードをつくります。

なまえはどんなものでもかまいません。メンバーが覚えやすいものが良いでしょう。

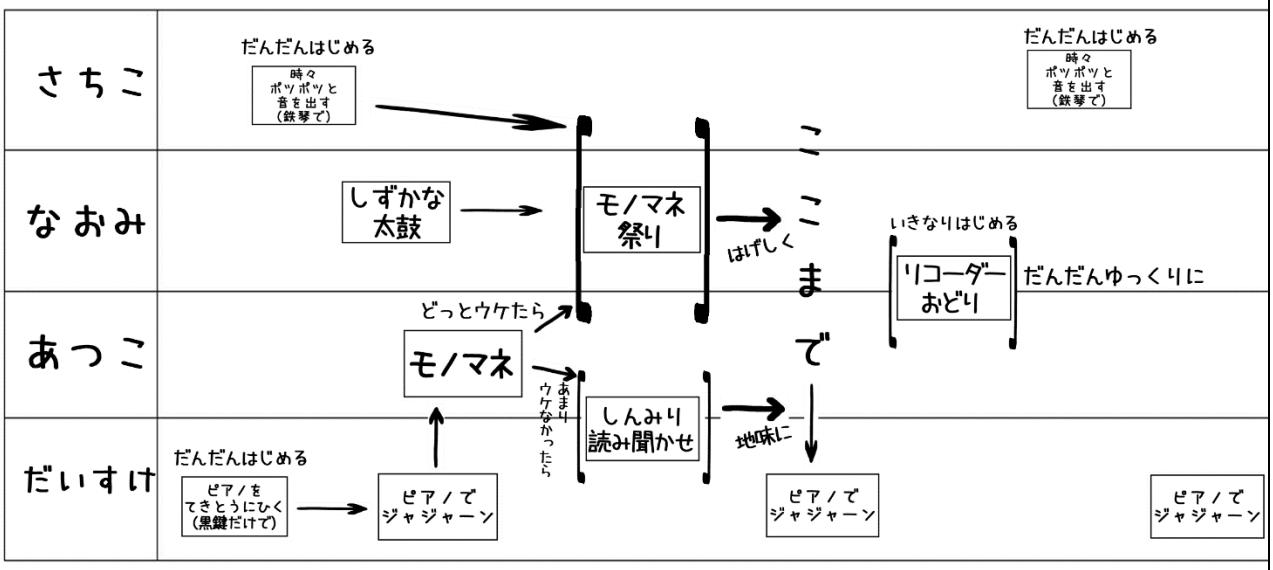
例

「変なおどり」＋「リコーダーでゆったりとしたメロディ」の合わせ技「リコーダーおどり」	「はげしい太鼓」＋「モノマネ」＋「ピアノをてきとうに弾く（黒鍵だけで）」の合わせ技「モノマネ祭り」
リコーダーおどり	モノマネ祭り

４．演奏シートをつくろう。

１人でおこなう表現カードと，２人以上でおこなう合わせ技の表現カードを使って，演奏シートをつくります。必要に応じて「→」，「ここまで」，「だんだんはげしく」などの書きこみをしてもかまいません。また，合わせ技の表現カードに［　］をつけて，誰が表現するのかをわかりやすくするのも良いでしょう（次のページの例をご覧ください）。およその演奏時間は自分たちで自由に決めてください。

演奏シートの例（４名での演奏の場合）



演奏シートをつくるときには，次の６つの点を心がけてください。

① つくった表現カードは使う必要を感じなければ，全部使わなくてもかまいません。

② 何度も使いたい表現カードや，２ 人以上でおこなう「合わせ技」は，必要に応じて増やしましょう。

③ 何もしない時間があってもかまいません。

④ どんな始め方・やめ方にするかも決めておきましょう。「突然始める」こともできますし，「だんだんと始める」こともできます。また，やめ方も，「突然やめる」こともできますし，「だんだんやめる」こともできます。

⑤ 演奏に，何らかの条件を設け，次の行動を分岐させてもかまいません。

ポイント：条件の設定には，例えば次のような可能性があります。

〇演奏者のサイン・・・「〇〇さんが耳をさわるサインを出したら演奏する」

〇結果が不確定な表現・・・「〇〇さんの表現『けん玉』が成功したら□□をする。失敗したら△△をする」

〇聴き手の反応・・・「〇〇さんの『モノマネ』で笑いが沸き起こった場合は□□をする。そうでない場合は△△をする」

〇偶然の出来事・・・「演奏するときに太陽が出ていれば□□をする。雲に隠れていたら△△をする」

ポイント：条件を演奏シートにメモしておくとわかりやすくなります（上記の演奏シートの例の「モノマネ」に付しているメモを参考にしてください）。

⑥ 組み合わせには，正解はありません。みなさんの感覚で，「かっこいい」「おもしろい」「美しい」「かわいい」「笑える」など，様々な価値観に基づいて，一つひとつの表現の効果が高まるような組み合わせを考えてください。

5. 演奏しよう。

演奏シートは，書き込み終えたら完成というわけではありません。自分たちにとっての「より良い表現」になるよう，実際に演奏をしてみながら，表現の内容や時間を変更したり修正したりしましょう。

なお，全体をとおして演奏するときには，できるだけ演奏シートを見ないでやってみましょう。